

当院における腹腔鏡下大腸手術による 他臓器合併切除の治療成績

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、第77回日本大腸肛門病学会に医学研究として発表いたします。対象となる患者さんでご自身の診療情報の研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

研究期間：2021年4月～倫理委員会承認日～2026年3月31日

【研究の目的・意義】

前施設においてT4b大腸癌に対する腹腔鏡下手術を積極的に行っており、T4b大腸癌85例に対して腹腔鏡下手術を施行した38例と開腹手術を施行した47例における比較を報告している。結果は、腹腔鏡下手術の方が出血量は有意に少なく(中央値:25ml vs 140ml, $p<0.001$)、合併症も有意に少なかった(10.5% vs 19.8%, $p=0.036$)。在院日数においても有意な差を認めた(12days vs 15days, $p=0.028$)。一方、切除後の生存率に有意な差は認めなかった。以上より他臓器浸潤を認める進行癌においても腹腔鏡手術が有用であることが示唆されました。この結果を踏まえ、当院においても2021年4月より1年間で13例に対して腹腔鏡手術における他臓器合併切除をおこないその結果について検討をおこないました。

【対象となる方】

2021年4月から2022年3月までに術前診断にて他臓器浸潤があると診断された患者さま13名の方が対象となります。

【研究機関名及び研究責任者(情報の管理について責任を有する者)】

りんくう総合医療センター外科 部長 三宅 正和

【調査項目】

患者背景、手術時間、出血量、術後合併症、在院日数、再発率 など

【個人情報の保護】

この研究に関わって収集される情報・データ等は、外部に漏えいすることのないよう、慎重に取り扱います。患者さんのお名前など個人を特定できる情報が明らかになることはありませんのでご安心ください。

この研究について、わからないことや聞きたいこと、何か心配なことがありましたら、お気軽に下記の連絡先までお問い合わせください。

【問い合わせ先】

りんくう総合医療センター外科 部長 三宅 正和

泉佐野市りんくう往来北2-23 電話：072-469-3111 FAX：072-469-7929